

肯定感、有用感、効力感、使命感！

●経営革新塾しよう会講演会／その7

9月20日夜の認定NPO法人シーエスアールスクエア理事長の宍戸仙助様のご講演「リタイヤ後は、利他Years！～東南アジアの山岳少数民族の子どもたちの輝く瞳に学ぶ～」の続きを綴りましょう。

◇ ◇

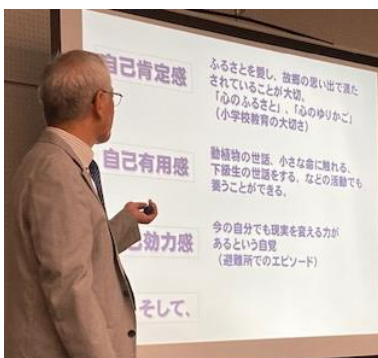
◆**自己有用感** 【写真はご講演の内容に沿って香田がネットから引用したものがあります】

子どもたちが半年から8か月かけて織った布が80円です。私たちは800円で買ってあげます。ただし、お金は渡しません。何故？ お金を渡してしまうと、お父さんがタバコを買ったり、お酒を買ったり、ひどい時には博打をやったりして無くなってしまいますのです。だから、お米で渡すのです。

「自分は家族の一員であり、人の役に立つことのできる存在であるという体験的自覚」、それを私は「自己有用感」と呼んでいます。この自己有用感が高まらないと、実は生きる動機づけにならないのです。福島の子どもたちに自殺者が何故未だに多いのか。この自己有用感が無いのですよ。自分たちは人の役に立つ存在だという体験的自覚が無いんです。世界中からも日本中からも大切にされて、お金をもらって自尊心や自己肯定感があります。でも、自己有用感が無いんです。これを育てることが、私はもの凄く大事なことだと思っているのです。

先ほど、クラスター爆弾の写真を見せましたが、現地でクラスター爆弾の倉庫を紹介してくれた方が「仙さんの学校の子どもたちに元気が無いようだから行って励ましてあげよう」と言って日本の学校に来てくれました。そして、最後に彼女は日本語がしゃべれないので英語でこう言いました。「The most important thing is being valuable to others than studying.」訳すと「**もっとも大切なことは勉強することよりも、人の役に立つ人間になることです**」と教えてくれました。「勉強は何のためにするのか、金持ちになるため、いい家に住むため、いい車に乗るため、そういうことではない。自分の可能性を高めれば高めるほど多くの人の役に立てるんだ」と教えてくれたのです。「人の役に立つ人間になるために勉強する」、私はそれを北海道から広島県まで伝えて歩いているのです。

東邦大学医学部大脳生理学の先生が「人間らしさをもたらししているのは前頭前野であることは分かりました。その前頭前野には3つの脳があり、仕事脳と学習脳と共感脳です。この共感脳は人間にしかないのです。仕事脳と学習脳はチンパンジーでも持っています。この共感脳は、他人の為を考え、また他人の心に共鳴する人間らしい機能で、セロトニン神経が関係しています。その共感脳を育てることが、人間がもっとも幸せになるための方法だ」と言っているのです。



自己肯定感を持ち、自己有用感まで持つと、今の自分でも現実を変える力があるという自覚「**自己効力感**」ができる人間が変わりますね。そして、「**自己使命感**」を持つのです。これを持ったら強いです。これを持ったら「勉強しろ」なんて言われなくてもやりますよ。やりたいのですから、そんな例が先ほど出てきた佐藤君なのです。

彼が大学受験の時に、私が福島で講演することになっていたのです。その11月に彼から電話が来て「校長先生、ぼく進路が決まりました」「おめでとう、ところで私、2週間後に中学校で講演があるんだけど、3分間だけ最後にしゃべってくれる」と頼んだら「はい、分かりました」と。それだけでなんの打合せも無しで、当日を迎えました。当日の録音があり

ますので聞いてください。

「皆さん、こんにちは。私は佐藤空飛と申します。私は伊達市立富野小学校を出て、現在は福島県立橋高校の3年生として学んでいます。私の夢は小学生の頃から変わっていません。私は震災のあった年に宍戸仙助先生と出会い、ラオスや他の東南アジア諸国の現状を知りました。自分たちが当たり前のように暮らす生活ができない人々が、海を超えたとすぐ近くにたくさんいるという現実に驚きました。そして私はいつしか、彼らを救いたいと考えました。今考えますと偉そうな考えだなと思いますが、間違っていたとは思いません。それ以来、中学、高校へと進学するうちに、自衛隊の国際派遣に興味を持ちました。これが自分のできるアジアや同じ境遇の人を救う大きな道の一つであると考えました。しかし、現実是这样甘くはなく、思い通りにいかないことばかりでした。中学生となり世界に羽ばたく人間となるためには、英語やコミュニケーション能力が必要だと気付きました。そこで私は大学への進学を見据えた進路を決定する必要性がありました。当時、成績がいいとは言えなかった私は進学校を目指すことが一つの目標になりました。それでも中三の夏の時点で今の高校への判定がE判定（A～Eで最低）で悩んでいたのを覚えています。それで必死の思いで進

学しても、あえて運動部に所属したために部活動に時間をとられ、勉強時間を削らなければならないことがあり、そこでもまた沢山悩み苦しみました。それでも『人の役に立ちたい』という思いを励みにしてなんとか無事に先月、自衛隊の幹部を育てる大学校（防衛大学校人文・社会科学専攻）に内定を決めました。私の夢は、小学生の頃から変わっていません。そして今、準備体操を終え、いざ本番を迎えようとしています。宍戸仙助先生は、大学校への合格を報告させていただいた際、『自分の国を守ることは、周りの国を守ることに等しい』とおっしゃいました。アジアで、そして世界で苦しむ人々、友達を作るといふ決意のもと、精いっぱい生きていこうと強く思っています。以上です」

と、私が1時間半講演して拍手も何も起きなかったのですけれども、彼が私の後に3分間話し終えたら「わあ〜」と拍手喝采でした。私はいじけていましたけれども、彼とこの話の4か月後に会いました。その時に「空飛君、あなたは何でそんなに頑張れたの？」と聞いたら彼はこう言いました。

「先生、ぼくは自分のためだったら妥協しちゃったと思います。でも、あの世界で苦しむ子どもたち、友達を助けたいという気持ちが、ぼくを妥協させなかったのだと思います。やるしかなかったんです」

と彼はいうのです。いや〜、嬉しかったですねえ。まさに、彼は自己使命感を持ちちゃったのです。私は日本人はまだ大丈夫だと思います。どんなに日本人の数が減ったって、自己使命感を持って世界に羽ばたける子どもたちが育てばまだまだ日本はポテンシャルを持っているはずですよ。

たまたま去年の12月に広島県の福山大学で講演することになっていたので。学生会館に2,000人を集めることができなくて、録画してオンデマンドで配信することになりました。何人ぐらいが見てくれたのかなと思ったら今日現在1841人でした。途中で止めちゃった人もいんでしょうけれども、1841人が私の「私たちがいかに学び、いかに生きるのか」という内容の講演を聞いてくれたことが嬉しかったですね。

◆両手両足がないニックからのメッセージ

最後です。オーストラリアにニック・ブイチチさんという青年がいます。彼は、生まれた時から両手両足がないのです。にもかかわらず彼は「I am happy」と言っているのです。では、彼の生きる喜び、何が彼の生き甲斐なのかを見ていただきたいと思います。<https://www.youtube.com/watch?v=oOHD8OqBVYs&t=10s>



「僕の名前はニック・ブイチチです。ぼくは全世界を旅行するのが好きです。釣りやゴルフ、水泳も大好きです。自分の人生を楽しんでいます。ぼくは幸せです。1982年オーストラリアで生まれたニックは、生まれた時から手足が無く、とても小さい左足だけがあった。そんなニックは、成長するにつれしだいにほかの子どもとは違う自分の姿に、希望よりも絶望が先に立つしか無かった。私はつらくて、孤独で、生きる意味が無かった。人生に意味もなく、学校へ行く理由もなかった。僕が大学に行けるなんて思いもよらなかった。（中略）。生きていれば転んでしまうこともある。こういうふうに…。こういうふうに転んじやったらどうすればいい？ 皆さんが知っているようにまた起き上がらなくちゃならないでしょう？ なぜならこのように転んだ状態ではどこにも行くことができないからです。でも時々人生には、あなたが転んだ時、もう起きられないと感じる時があります。皆さん！（私に）希望があると思いますか。なぜなら、私はこのように転んでも、私には手足が無いんですよ。私がもう一度起き上がることは不可能みたいでしょう？ でも、そうではないんです。私は百回でもまた起き上がろうとチャレンジしています。もしも百回すべて失敗して、私が起き上がることを放棄するとしたら、私は二度と起きあがれないでしょう。でも、失敗してもまたチャレンジするならば、それは終わりではありません。どうやって最後まで耐えられるのが大事なことでしょ。強く耐えられるでしょうか？ もう一度起きあがれる勇気を得ることができますよ。こういうふうにね。（拍手喝采）。」

ニックさんは、オーストラリア生まれですが、今はロサンゼルスに住んでいます。世界中35カ国を回って中高生の前に行き、ああやって転んで見せてこういうのです。「私が生き続ける姿、この身体で生き続ける姿、私が転んでも立ち上がる姿、それを見て生き続けること、もう一度立ち上がることを選んでくれる人間や子どもたちがいるなら、それが私の生き甲斐です」と、ニックさんにとっても人の役に立つことが生き甲斐なのです。だから生きていられるんだというのです。彼は本を書きました。「Give me a Hug『抱きしめて』」です。中身は絵本のようなのですが、半端なく中身が深い。ニックさん、8年前に日本人の奥さんと結婚しました。8章にこんな言葉が綴られています。「宮原佳苗さん（奥さん）は、ニックの手に触れることはできません。けれども彼女は彼の愛を感じることができます。本当の愛とは何でしょうか。本当の愛とはその人のすべてを愛することです。その人が何を持っているか、何をもっていないか、何が強みか、何が弱みか、何ができるか、何ができないか、それらをすべて愛することです」と書いてあります。凄いことですよ。

自己使命感を持ち、社会に貢献し、死の瞬間までも自己実現を生きる、それが本当の幸せではないかと思っています。ありがとうございました。《完》 【この日、会場で20,881円の募金がありました。感謝】